

令和2年9月17日

上田市塩田公民館長

酒 井 重 雄 様

上田市塩田公民館運営審議会

会長 室 賀 孝 一 ㊟

塩田地区の地域づくりに係る公民館の役割について（答申）

令和元年10月2日付け元塩公第51号により上田市塩田公民館長から諮問ありました標記の件について、下記のとおり答申します。

記

1 はじめに

令和元年10月2日開催の令和元年度第1回上田市塩田公民館運営審議会において、公民館長から「塩田地区の地域づくりに係る公民館の役割について」の諮問がありました。

諮問の趣旨は、平成30年12月21日付中央教育審議会答申「人口減少社会における新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」を踏まえ、人口減少、高齢化、貧困、つながりの希薄化、孤立、SDGsに向けた取組など地域課題に対し、持続可能な地域づくりを進めるため、社会教育の取組が期待されるが、塩田地区の公民館としてこれをどう捉え、どうあるべきと考えるか、また、特に地域に求められる課題に対して具体的にどのように事業展開を行う必要があるのかということでした。

その後、実施したアンケート調査結果、管内学校ヒアリング調査などの結果をもとに状況の確認、分析を行い、本年2月、7月、9月の延べ3回にわたる審議によりこのたび答申に至りました。

塩田公民館におかれましては、この答申を踏まえ、地域の社会教育機関として事業実施に反映いただくことを期待します。

なお、「地域づくりにおける公民館の役割」は、非常に多岐にわたることから、本答申は、現時点に

において、塩田地域にとって特に必要な「住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割（3つの地域課題（防災、地域福祉、子育て支援・青少年家庭教育）」と「若者層の利用促進」に焦点を絞り、課題（今後の方向性）と具体的方策をまとめたものであり、公民館には、本答申には含まれていない生活安全、環境衛生、健康づくり、歴史文化など他分野の課題解決のための役割もあることを申し添えます。

また、審議期間中に令和元年10月の台風19号災害及び令和2年春先からの新型コロナウイルス感染症の発生というこれまで経験したことのない大きな現象が立て続きに起こりました。特に新型コロナウイルス感染症は、社会経済及び身近な生活に大きな影響を与え、今もなお、終息時期は未定で、私たちの生活も元に戻っておりません。現段階では先を見通せない部分も多いわけですが、以下の4に示すとおり住民の不安や新たな課題に応じた対応、新しい生活様式に合致した事業スタイルへの移行など変化が求められていますので、公民館の運営にあたっては、この点も留意されますよう求めます。

2 住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割

（1）防災に関すること

ア 課題（今後の方向性）

- ① 地域防災に関することは、地域社会及び個人にとって極めて重要な社会的な課題であり、公民館として関係機関と連携し学習の機会を提供することが求められている。
- ② 塩田まちづくり協議会（住民自治組織）が策定した塩田まちづくり計画においても、広域的な防災訓練の実施、ハザードマップの周知、避難場所の検討、消防団員不足に対する研究・実践など行政と協働し実施することが計画されており、これらのニーズに対応するための学習機会の提供が必要である。

イ 具体的方策

① 防災講座の開催

塩田地域自治センター、塩田地区の自主防災組織及び塩田まちづくり協議会等と連携しながら以下の開催例のように講座を効果的に開催する。

（開催例）

- ・一般の住民のかたを対象に避難場所、ハザードマップ、災害時の対処方法などの基本知識習得のための講座を開催する。
- ・自主防災組織関係者なども含め住民を対象に災害時シミュレーションゲームなど多彩な方法により、身をもって理解することができる講座を開催する。
- ・上記講座を毎年開催し、多くのかたに経験則をもってもらう。また、地域のかたから希望があれば、震災記念館などの見学も企画実施する。

（２）地域福祉に関すること

ア 課題（今後の方向性）

- ① 地域包括支援センターと連携し、シンポジウム等を重ねてきた結果、福祉関係者のみならず、公民館の利用者や塩田まちづくり協議会の関係者など地域のかたにも学習に参加する広がりを見せている。
- ② 市民団体や塩田まちづくり協議会などと連携し、学んだ知識や技能を活用する機会や発表する場を設け、買い物やごみ出し、草取りなど身近な課題について話し合い、小さなことから取り組むきっかけづくりを繰り返し、徐々に地域全体に定着させる（繰り返すことにより、何かやりたいという人の出番をつくり、背中を押す。）ことも必要である。

イ 具体的方策

- ① 地域福祉講座の開催

塩田地域自治センター、地域包括支援センターと連携を図り、塩田地区自治会連合会、塩田まちづくり協議会等の団体と相談しながら、以下の開催例のように効果的に講座を実施、又は共催、後援していく。

(開催例)

- ・居場所をつくる講座（高齢者男性が参加するサロンを学ぶ）
- ・買い物やごみ出し対策などの地域の先進事例を学ぶ講座
- ・地域の福祉・教育団体や個人が公民館で結ばれ活動に至った「みんなのしおだ食堂」の取組を紹介する機会

(3) 子育て支援、青少年、家庭教育に関すること（学校・家庭・地域の連携に関することを中心に）

ア 課題（今後の方向性）

① 学校、家庭、地域の連携の強化

- ・学校支援に係るコーディネーターやボランティアの発掘、育成を図り、学校に対して地域ぐるみの支援を引き続き進める必要がある。
- ・子供が放課後や週末に安心して過ごすことのできる居場所づくりを進めるため、地域住民との交流や様々な学習・体験の機会を設ける必要がある（第二次上田市総合計画掲載）。
- ・青少年育成関係団体連絡会（小学校区）は、自治会毎に自治会役員、分館長、青少年育成推進員、育成会、PTA、老人会などが一堂に会し、子供に係る事業の検討を通じて、地域社会での子どもの育成や後世に伝えるべき文化の再確認をする場となっており、コミュニティを維持するうえでも大変重要な事業である。

- ② 市民団体や住民自治組織などと連携し、学んだ知識や技能を活用する機会や発表する機会の拡大が必要である（第二次上田市総合計画掲載）。

イ 具体的方策

① 学校、家庭、地域の連携の強化

- ・塩田地区全小学校の学校運営委員会に塩田公民館職員が関わり、コーディネーターやボランティア発掘、育成を図る体制をつくる。
- ・子供が放課後や週末、長期休業中に安心して過ごすことのできる居場所づくりを進めるための学習・体験の場をつくる。
- ・青少年育成推進員や分館役員対象の会議や研修会を引き続き実施し、各分館の先進的な事業や工夫された取組を塩田地区全体で共有できるよう努める。(3 (1) イ④と内容重複)

② 市民団体や住民自治組織等と連携した青少年・家庭教育等の取組

- ・学校に対する「支援」から「連携・協働」による活動の受け皿として今春再編した「上田市立塩田中学校地域学校協働活動運営委員会（しおだっこ応援団運営委員会）」の活動を軸に、地域と学校とが協働する取組の和を広げるよう努める。
- ・地区内3小学校及び塩田中学校のボランティア組織と学校とが連携し合う機会をつくるため、「小中学校コミュニティスクール交流会」を開催する。

3 若者層に来館を促す取組の強化

(1) 小中学生に来館を促す取組

ア 課題（今後の方向性）

- ① 定着している小学4年対象の「ため池学習」は、継続することが重要である。併せて、学校だけでなく、家庭や地域で気軽に郷土を知ることができる機会が必要である。
- ② 夏休みなど長期休み中における「寺子屋的な学習の機会の提供」の要望が多く見受けられる（公民館アンケート及び学校ヒアリングからもあった）。
- ③ 分館単位の夏祭りや伝統行事も多くあるが、地域の自然、歴史、文化に触れる機会はたっさ

んあって良い。自然体験などは親の世代の経験則がないためにできない子どもも多いと思われる、参加する機会を確保するため、公民館主催の体験講座は必要である。

- ④ 育成会や分館の活動を支援し、子ども達が体験活動や世代間交流に参加する機会を設け、生きる力や地域への関心を高める取り組みを推進する必要がある（第二次上田市総合計画掲載）。

イ 具体的方策

- ① 塩田の「ご当地かるた」を地域のかたや子どもたちとともに作成し、利活用する取組を仕掛け、広く子どもたちが自然に郷土学習ができるよう検討する。
- ② 夏休み中に地域のかたに協力いただき、小学生を対象に学習や遊び、自然体験する場を設ける。実施にあたっては、高校生や大学生にも参画いただき自身の成長の場にもつなげる。
- ③ 地域の自然に触れ、環境や歴史を学ぶ「信州上田千曲川少年団」と共催し、川遊びなどの事業を実施してきており、今後も継続させ参加の機会を確保していく。
- ④ 分館活動が衰退しないよう役員の研修を引き続き取り組む。その際、塩田地区内分館の先進事例を紹介し合う機会となるよう努める（民生児童委員、福祉推進員と分館役員が合同で多世代交流と学童の見守りを行う八木沢自治会の事例など）。
- ⑤ 中学生に公民館行事（分館含む）における出番（役割）を与え、行事に参加していただくよう工夫する（（例）地元の運動会で司会をしてもらうとか、祭りで露天の遊びコーナーを任せるなど）。

（２）高校生・大学生に来館を促す取組

ア 課題（今後の方向性）

- ① 高・大学生が公民館活動に参加する機会があまりないので、興味を持ってもらう又は来てもらうきっかけづくりが必要である。
- ② そのためには、高・大学生と、職員や利用者などが親密に関われる関係性をつくり、来やす

くする環境づくりが必要である。

- ③ 学校帰りに気軽に來ることができるとまり場的な場づくりは必要と思われる。ただし、夜間、土・日など職員不在の時間に、玄関ホールなどのスペースを開放することは安全面で課題がある。

イ 具体的方策

- ① 具体的な事業を検討するため、高・大学生と職員が接する機会を設け、対話することから始める。その前段として大学や高校の先生がたと話し合う。
- ② 対話の中で、高・大学生にとって公民館が居心地の良い空間とするための事項を引き出していく。
- ③ 高・大学生が地域で行いたい活動をなるべくかなえてやるよう関係を作る。
- ④ 公民館の情報発信を高・大学生にお手伝いいただくなど、小さなことからお互いの関係を構築していく。
- ⑤ 事前に告知できる事業を年度当初に示し、高・大学生が計画的にボランティア参加しやすい工夫（インターンシップのようにメニュー化し募集）をする。

（３）社会人に来館を促す

ア 課題（今後の方向性）

- ① 高・大学生と同様に若い人と職員が接する機会が必要である。また、１回だけでなく、年数回ぐらい雑談、ヒアリングの機会をつくったらどうか。
- ② 上記を行ったうえで、若い人にとって居心地の良い環境やメリットをどう引き出すかなどを考え、対応していく必要がある。

イ 具体的方策

- ① 若い人と職員が接する機会を設け、対話することから始める。

- ② 情報受発信力が高く、現在公民館と接点を持っている「子育て中の女性」と職員とで雑談やヒアリングをする機会を設け、対話の中で、公民館が居心地の良い空間とするための事項を引き出していく。(独身者や既婚男性は、困難を極めるためターゲットを子育て中のかたに絞る)
- ③ 子育て中の女性が公民館など行政サービス全般に求める生の声をなるべくかなえてやりたいという思いで、寄り添い良い関係を作る。
- ④ 情報発信を子育て中の女性にお手伝いただくなど、小さなことからお互いの関係を構築していく。
- ⑤ 上記のと通りの対話、コミュニケーションを踏まえ、まずは、子育て中の女性を対象とした事業を実施する。

4 新型コロナウイルス感染の環境下（ウィズコロナ）における公民館運営

新型コロナウイルスの感染拡大防止のための特効薬やワクチンが開発されるまでは、新しい生活様式への対応など感染拡大防止を行いながらコロナとともに生きる、いわゆる「ウィズコロナ」の生活が求められています。したがって、公民館の施設運営や事業運営においても、これまでどおりではない対応が必要であり、以下の点に留意した取組をされるよう要請します。

- (1) 新しい生活様式（感染防止の3つの基本（三密回避・身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いなど））を取り入れた施設運営
- (2) 「ウィズコロナ」下において新たに求められるようになったことへの対応
例) Web 会議・リモート型、三密集合形式ではない会議・講座のスタイル
- (3) 偏見や差別をなくすための取組の実施

機会を捉えて偏見や差別をなくすための取組の実施（自治会人権同和や人権市民の集いなど）

※別紙は、上記2及び3に係る事業の現況と課題、今後の具体的方策をまとめた資料

塩田公民館の事業に係る現況と課題、今後の具体的方策について					別紙
No	項 目	現 況	課 題（今後の方向性）	具体的方策	
2	住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割				
	（１）防災に関すること	①地域防災に係る講座は実施していないが、令和元年11月～12月に公民館で実施した「台風19号を体験しての記録を残そう！のとりまとめによると、ペット、避難場所、防災マップ、避難関係等に関心を持つ者が多かった。 ②公民館アンケート調査の結果によると、「受講したい講座又は必要と思う講座」に、「防災・生活安全分野」を挙げる者が最も多かった。 ③また、受講したい具体的なテーマは、防災分野に限られ避難場所、避難訓練、ハザードマップ、備蓄、ペット同伴避難など多岐にわたっている。なお、防犯や生活安全について記入する者は一人もいなかった。 ④上田市総合計画住民アンケート調査結果によると、重要度が高く、満足度も高く、「今後優先的に取り組むべき施策」の分野にあたる。	①地域防災に関することは、地域社会及び個人にとって極めて重要な社会的な課題であり、公民館として関係機関と連携し学習の機会を提供することが求められている。 ②塩田まちづくり協議会（住民自治組織）が策定した塩田まちづくり計画においても、広域的な防災訓練の実施、ハザードマップの周知、避難場所の検討、消防団員不足に対する研究・実践など行政と協働し実施することが計画されており、これらのニーズに対応するための学習機会の提供が必要である。	①防災講座の開催 塩田地域自治センター、塩田地区の自主防災組織及び塩田まちづくり協議会等と連携しながら以下の開催例のように講座を効果的に開催する。 （開催例） ・一般の住民のかたを対象に避難場所、ハザードマップ、災害時の対処方法などの基本知識習得のための講座を開催する。 ・自主防災組織関係者なども含め住民を対象に災害時シミュレーションゲームなど多彩な方法により、身をもって理解することができる講座を開催する。 ・上記講座を毎年開催し、多くの方に経験則をもってもらう。また、地域の方から希望があれば、震災記念館などの見学も企画実施する。	
	（２）地域福祉に関すること	①地域包括支援センターを中心に福祉関係事業所などと連携し、地域の支え合いの仕組みや拠点を作るためのシンポジウムやワークショップを令和元年度から開催してきている。残念ながら3月～4月に開催予定だった講座は新型コロナ感染防止のため中止となった。 ②公民館アンケート調査の結果によると、「受講したい講座又は必要と思う講座」の回答では、「地域福祉」の分野は回答全体の6％と割と少なめであったが、上田市総合計画住民アンケート調査結果によると、重要度が高く、満足度が低い、「今後も継続的な取組が必要」な分野となっている。	①地域包括支援センターと連携し、シンポジウム等を重ねてきた結果、福祉関係者のみならず、公民館の利用者や塩田まちづくり協議会の関係者など地域のかたにも学習に参加する広がりをみせている。 ②市民団体や塩田まちづくり協議会などと連携し、学んだ知識や技能を活用する機会や発表する場を設け、買い物やごみ出し、草取りなど身近な課題について話し合い、小さなことから取り組むきっかけづくりを繰り返し、徐々に地域全体に定着させる（繰り返すことにより、何かやりたいという人の出番をつくり、背中を押す。）ことも必要である。	①地域福祉講座の開催 塩田地域自治センター、地域包括支援センターと連携を図り、塩田地区自治会連合会、塩田まちづくり協議会等の団体と相談しながら、以下の開催例のように効果的に講座を実施、又は共催、後援していく。 （開催例） ・居場所をつくる講座（高齢者男性が参加するサロンを学ぶ） ・買い物やごみ出し対策などの地域の先進事例を学ぶ講座 ・地域の福祉・教育団体や個人が公民館で結ばれ活動に至った「みんなのしおだ食堂」の取組を紹介する機会	
（３）子育て支援、青少年、家庭教育に関すること （学校・家庭・地域の連携に関することを中心に）	①親子ふれあい広場の開催（未就園児対象） ②毎年、各自治会毎の青少年・家庭教育自治会懇談会を開催と塩田地域全体の青少年育成推進大会も開催し、地域全体で関心をもって取り組む環境ができています。 ③毎年、各小学校区毎の「青少年育成関係団体連絡会」を通じて自治会役員、分館、PTA、青少年育成推進員などが一堂に会し、各自治会ごとの青少年育成に係る課題を共有し行動につながる機会がある。 ④しおだっ子応援団の事務局として、塩田中の学校支援活動の運営を行っている。 ⑤ 公民館アンケートの結果によると、「受講したい講座又は必要と思う講座」の回答では、「子育て支援」は、回答全体の13％と中位に位置している。	① 学校、家庭、地域の連携の強化 ・学校支援に係るコーディネーターやボランティアの発掘、育成を図り、学校に対して地域ぐるみの支援を引き続き進める必要がある。 ・子供が放課後や週末に安心して過ごすことのできる居場所づくりを進めるため、地域住民との交流や様々な学習・体験の機会を設ける必要がある（第二次上田市総合計画掲載）。 ・青少年育成関係団体連絡会（小学校区）は、自治会毎に自治会役員、分館長、青少年育成推進員、育成会、PTA、老人会などが一堂に会し、子供に係る事業の検討を通じて、地域社会での子どもの育成や後世に伝えるべき文化の再確認をする場となっており、コミュニティを維持するうえでも大変重要な事業である。 ② 市民団体や住民自治組織などと連携し、学んだ知識や技能を活用する機会や発表する機会の拡大が必要である（第二次上田市総合計画掲載）。	① 学校、家庭、地域の連携の強化 ・塩田地区全小学校の学校運営委員会に塩田公民館職員が関わり、コーディネーターやボランティア発掘、育成を図る体制をつくる。 ・子供が放課後や週末、長期休業中に安心して過ごすことのできる居場所づくりを進めるための学習・体験の場をつくる。 ・青少年育成推進員や分館役員対象の会議や研修会を引き続き実施し、各分館の先進的な事業や工夫された取組を塩田地区全体で共有できるよう努める。（3（1）イ④と内容重複） ② 市民団体や住民自治組織等と連携した青少年・家庭教育等の取組 ・学校に対する「支援」から「連携・協働」による活動の受け皿として今春再編した「上田市立塩田中学校地域学校協働活動運営委員会（しおだっこ応援団運営委員会）」の活動を軸に、地域と学校とが協働する取組の和を広げるよう努める。 ・地区内3小学校及び塩田中学校のボランティア組織と学校とが連携し合う機会をつくるため、「小中学校コミュニティスクール交流会」を開催する。		

塩田公民館の事業に係る現況と課題、今後の具体的方策について				
No	項 目	現 況	課 題（今後の方向性）	具体的方策
3	若者層に来館を促す取組の強化			
	（１）小中学生に来館を促す取組	【小・中学生】 ①郷土学習 ふるさとを愛し、ふるさとの誇りを醸成するため、塩田地区小学4年生全員を対象に授業でため池学習に取り組んでいる。地域人材に協力いただき行っており、当公民館の特徴的な事業である。また、市が取り組む「信州上田学」にも一致している。 ②自然体験 ため池探検隊によるカヌー体験や、信州上田千曲川少年団との共催による川遊びやスノーシューなどの体験事業により、自然との共生や環境などを学ぶ機会を設けている。 ③各地区の活動推進 分館の活動を支援し、子ども達が体験活動や世代間交流に参加する機会を設け、生きる力や地域への関心を高める取組を推進しています。 ④その他 当館の講座は、夏休み学習室開放を除きで中学生は参加していない。	【小・中学生】 ①定着している小学4年対象の「ため池学習」は、継続することが重要である。併せて、学校だけでなく、家庭や地域で気軽に郷土を知ることができる機会が必要である。 ②夏休みなど長期休み中における「寺子屋的な学習の機会の提供」の要望が多く見受けられる（公民館アンケート及び学校ヒアリングからもあった）。 ③分館単位の夏祭りや伝統行事も多くあるが、地域の自然、歴史、文化に触れる機会はたくさんあって良い。自然体験などは親の世代の経験則がないためにできない子どもも多いと思われ、参加する機会を確保するため、公民館主催の体験講座は必要である。 ④育成会や分館の活動を支援し、子ども達が体験活動や世代間交流に参加する機会を設け、生きる力や地域への関心を高める取り組みを推進する必要がある（第二次上田市総合計画掲載）。	【小・中学生】 ①塩田の「ご当地かるた」を地域のかたや子どもたちとともに作成し、利活用する取組を仕掛け、広く子どもたちが自然に郷土学習ができるよう検討する。 ②夏休み中に地域のかたに協力いただき、小学生を対象に学習や遊び、自然体験する場を設ける。実施にあたっては、高校生や大学生にも参画していただき自身の成長の場にもつなげる。 ③地域の自然に触れ、環境や歴史を学ぶ「信州上田千曲川少年団」と共催し、川遊びなどの事業を実施してきており、今後も継続させ参加の機会を確保していく。 ④分館活動が衰退しないよう役員の研修を引き続き取り組む。その際、塩田地区内分館の先進事例を紹介し合う機会となるよう努める（民生児童委員、福祉推進員と分館役員が合同で多世代交流と学童の見守りを行う八木沢自治会の事例など）。 ⑤中学生に公民館行事（分館含む）における出番（役割）を与に、行事に参加していただくよう工夫する。（（例）地元の運動会で司会をしてもらうとか、祭りで露天の遊びコーナーを任せるなど）
	（２）高校生・大学生に来館を促す取組	【高校生・大学生】 ①高・大学生を主な対象とした事業は成人式以外にはない。また、事業に参画する仕組みがない。	【高校生・大学生】 ①高・大学生が公民館活動に参加する機会があまりないので、興味を持ってもらう又は来てもらうきっかけづくりが必要である。 ②そのためには、高・大学生と、職員や利用者などが親密に関われる関係性をつくり、来やすくする環境づくりが必要である。 ③学校帰りに気軽に来ることができるたまり場的な場づくりは必要と思われる。ただし、夜間、土・日など職員不在の時間に、玄関ホールなどのスペースを開放することは安全面で課題がある。	【高校生・大学生】 ①具体的な事業を検討するため、高・大学生と職員が接する機会を設け、対話することから始める。その前段として大学や高校の先生がたと話し合う。 ②対話の中で、高・大学生にとって公民館が居心地の良い空間とするための事項を引き出していく。 ③高・大学生が地域で行いたい活動をなるべくかなえてやるよう関係を作る。 ④公民館の情報発信を高・大学生にお手伝いいただくなど、小さなことからお互いの関係を構築していく。 ⑤事前に告知できる事業を年度当初に示し、高・大学生が計画的にボランティア参加しやすい工夫（インターンシップのようにメニュー化し募集）をする。
	（３）社会人に来館を促す取組	【社会人】 ①20歳代くらいの人を主要な対象とした事業は成人式以外にはない。	【社会人】 ①高・大学生と同様に若い人と職員が接する機会が必要である。また、1回だけでなく、年数回ぐらい雑談、ヒアリングの機会をつくったらどうか。 ②上記を行ったうえで、若い人にとって居心地の良い環境やメリットをどう引き出すかなどを考え、対応していく必要がある。	【社会人】 ①若い人と職員が接する機会を設け、対話することから始める。 ②情報受発信力が高く、現在公民館と接点を持っている「子育て中の女性」と職員とで雑談やヒアリングをする機会を設け、対話の中で、公民館が居心地の良い空間とするための事項を引き出していく。（独身者や既婚男性は、困難を極めるためターゲットを子育て中のかたに絞る） ③子育て中の女性が公民館など行政サービス全般に求める生の声をなるべくかなえてやりたいという思いで、寄り添い良い関係を作る。 ④情報発信を子育て中の女性にお手伝いいただくなど、小さなことからお互いの関係を構築していく。 ⑤上記のとおり対話、コミュニケーションを踏まえ、まずは、子育て中の女性を対象とした事業を実施する。

○上田市塩田公民館運営審議会委員名簿

(敬称略、順不同、◎会長、○副会長、所属等は答申時現在のもの)

氏 名	所属等
◎ 室賀 孝一	東塩田地区自治会連合会会長
○ 小林 路子	公民館利用者団体協議会
龍野 藤人	塩田まちづくり協議会会長
中村 弘文	中塩田小学校校長（上田市校長会）
西澤 むめ子	前塩田の里交流館（とっこ館）館長

任期：平成30年10月31日から令和2年10月30日まで

○会議等の経過

令和元年 10月2日(水)	○令和元年度第1回塩田公民館運営審議会開催(第2学習室) (諮問)、(報告事項)平成30年度事業報告、施設概要及び利用状況について (協議事項)進め方、現況と課題及び今後の具体的方策について
10月～12月末	○公民館窓口でアンケート調査実施 ・公民館利用者団体あてアンケート調査依頼(11/12) ・分館長経由で住民へアンケート調査依頼(11/14) ・学校長経由でPTA役員あてアンケート調査依頼(各校ヒアリング時)
11月～12月末	○管内小中学校、高校、大学へのヒアリング実施 塩田西小 11/15、東塩田小 11/20、中塩田小・塩田中 11/21、さくら国際高校 11/26、長野県工科短期大学校 11/27、上田女子短期大学 12/2
令和2年 2月19日(水)	○令和元年度第2回塩田公民館運営審議会開催(第2学習室) (報告事項)アンケートの結果、学校ヒアリングの結果、公民館だよりについて、公民館活動アワード受賞について (協議事項)答申案の審議、令和2年度事業計画について
7月20日(月)	○令和2年度第1回塩田公民館運営審議会開催(第1学習室) (報告事項)新型コロナウイルス感染症の対応状況 (協議事項)答申案について
9月10日(木)	○令和2年度第2回塩田公民館運営審議会開催(第2学習室) (報告事項)文化祭の中止、利用許可申請書の変更、チェックリストの様式変更について (協議事項)答申案について
9月17日(木)	○答申 会長から館長への手交 (塩田公民館事務所)